

原泌尿器科病院 透析室だより

2023(令和5年)2月発行

第84号

発行者 原泌尿器科病院 透析室

病院理念

信念を持って真摯に医療をおこなうこと

基本方針

患者さんが納得される最適な医療を 安全に提供します

患者さんにとって良いことは 優先しておこないます

最新の治療法を積極的に取り入れます



鬼は～そと！！福は～うち♪

早いもので2023年もあっという間に1ヶ月が過ぎましたね。一段と寒さが厳しくなり、本格的な冬を迎えました。今季はインフルエンザとコロナが同時流行しており、まだ油断はできない状況です。

鬼退治ならぬ、コロナ・インフルエンザ退治！！

一人ひとりが「うつらない・うつさない」という意識を持って行動していただくよう、引き続きご協力宜しく御願い致します。

以下の場合

透析日に関わらず、電話連絡をください！

① 体温が 37.0 度 以上ある

② 吐き気や嘔吐、激しい下痢症状がある

③ 熱はないが、鼻水・くしゃみ・せき・のどの痛みなど 風邪症状 がある

④ 同居人や職場など 身近に発熱や風邪症状の方がいる

※他院で抗原検査やPCR検査を受けた場合もご報告をお願いします

透析室直通 **TEL 078-371-1272**

受付時間 月・水・金 7:30~19:00 火・木・土 7:30~15:30

つながらない時は **TEL 078-371-1203**

送迎バスへの乗車時および病院内入退室時には
手指消毒をおこない、マスクを着用してください
換気のため窓を開けます、ご自身でも防寒の対策をお願いします

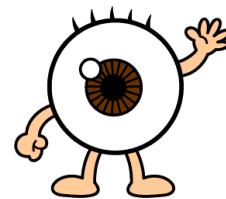
今回はシャント管理についてのお話です

皆さんは普段から、シャントの観察はできていますか？
シャントの調子が体調に影響を及ぼすことがあります。
シャントは透析をするための大切な命綱です。
必ず1日1回は観察しましょう！
シャントの管理は「観る」「聴く」「触る」が基本です！



<観る>

シャントのうでの色を観察しましょう。
皮膚の色に変化があるときは、何らかの異常が
起こっていると考えられます。



局所的に紫や青色に変化している場合

止血不良や穿刺トラブルによる皮下出血です。時間の経過とともに自然に吸収されます。
皮下出血の部位が硬く触れたり、痛みが強い場合は透析開始前にお知らせください。

穿刺跡を中心に赤く腫れており、痛みと熱感がある場合

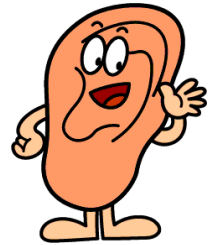
シャントの細菌感染が疑われます。時には針穴から膿が出てくることもあります。とくに人工血管は感染を起こしやすいため注意が必要です。

局所的に皮膚がガサガサになったり赤くなっている場合

消毒薬や麻酔テープ、針の固定テープや絆創膏による皮膚かぶれが考えられます。
消毒薬や固定テープを変更して対応いたしますので、かゆみ強い場合にはご相談ください。

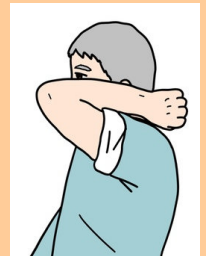
<聴く>

シャント音を聴くことは、異常の早期発見の第一の方法です。自前の聴診器を用いる、又はシャントのうでを直接耳に当てることでシャント音を確認することが出来ます。自分のシャント音が分かるようになると「あれ？いつもと違う音がする！」と異変にいち早く気付けるようになります。1日に最低1回はシャント音を聴くようにしてください。聴診器は当院でも購入出来ますので、スタッフへお声がけください。



～シャント音の聴き方～

- ・手首～上腕まで順番に聴診器を当てる。
- ・聴診器を持っていない方は直接耳を当てて音を確認する。
- ・ヒューヒュー(高い音)やザッザッ(断続的)といった音は、シャントが細くなったり詰まりかけている可能性があります、注意が必要です！！



<触る>

シャントをつないだところ（吻合部）から順に全体を触ります。シャントは吻合部でよく詰まるため、この周囲を念入りに触ります。シャントが詰まっている場合は、その部分が硬くなり痛みも出ます。硬いところがないか、痛いところがないか、血液が血管の中を流れるザーザーとした独特の感覚（スリルと言います）を感じるか確認します。



シャント音を聴く・触るのはご本人でなくても構いません。身近な方、ご家族などが行うこともできます。みんなでシャント異常の早期発見に努めましょう！

透析を受けている間、皮膚はテープなどの機械的な刺激を受けています。さらに透析で水を除くことによって、皮膚が乾燥しやすい状態にあります。シャントを守るためには、かぶれや痒みの予防も必要です。

シャントのスキンケアポイント



《ごしごし洗いは禁物！》

ナイロン製のタオルやタワシなどの硬い素材でゴシゴシ洗わない。力強く洗うと皮膚表面を傷つけ、バリア機能を低下させるなど、かゆみの悪循環（皮膚症状の悪化→かゆみ→掻く）へ繋がります。

柔らかい綿や絹などの素材や、手のひらでやさしく洗いましょう。

《お湯はぬるめで長湯は避ける！》

熱い湯船やシャワーは、皮膚を刺激してかゆみを誘発します。

43℃以上はかゆみや痛みとして認知されるため 38～40℃のお湯が適温です。入浴時間は 15 分以内にしましょう。長湯によって皮膚表面の水分を蒸発させ、乾燥しやすくなるので注意が必要です。

《お風呂上りには保湿剤を塗りましょう！》

入浴後の肌は、皮脂が少なくなっているので乾燥しやすい状態です。

肌が潤いを保っていられるのは 10 分！お風呂から上がった後、10 分以内に保湿ケアをしましょう。痒みが強い方は、当院で軟膏を処方いたします。

透析前に軟膏や保湿剤を塗ると、固定テープが剥がれやすくなり針が抜けてしまう恐れがあるので避けましょう。

その他、シャントを守るために以下のことに気をつけましょう



適切な管理でシャントを長持ちさせましょう！